



有限会社 柳川商事

「廃プラスチックを油にして再利用
日本初のリサイクル事業に挑戦」

今回紹介する企業は、家庭から出される可燃ごみや資源物の収集、浄化槽清掃業務などを行う有限会社柳川商事です。

昭和34年、梶島大樹^{だいき}社長（35歳）の祖父、梶島巳一^{いち}さんが、家庭のごみ収集や尿のくみ取りを始めたことが創業のきっかけ。当時はバ

キューム車などがなく、し尿のくみ取り収集はリヤカーを使っていたそうです。し尿については昭和37年に大川柳川衛生組合が、ごみ処理につい

ては39年に柳川市三橋町大和

町消防厚生事業組合（現在は合併により消滅）が設立。広域的な処理が行われるようになると、同社は旧柳川市域の家庭ごみやし尿の収集業務を担当するようになり、現在に至ります。

平成13年からは、7品目の資源物収集を住民などの協力を得て開始。雑草や剪定された枝などを細かく裁断して肥料の原料にする草木リサイクルや、大木や生木を、細かくチップ状にしてバイオマス発電の燃料にするための中間処理も行っています。さらに、大木町からの委託を受け、割れた陶磁器類を細かく砂状に

今年4月から新事業として、本市やみやま市、大木町から収集した廃プラスチックを油に変え、燃料に再利用する「廃プラスチック1次選別油化事業」に日本で初めて着手。本年4月より大木町の工場が本稼働し、廃プラスチックが重油や軽油などの燃料に生まれ変わります。リサイクル油は、各市町村の施設や農業で使うボイラーの燃料などに再利用。将来的には、大川市や八女市、筑後市などからも廃プラスチックを集め、日本初の事業を成功させようと意気込んでいます。

●社長のひとこと

今後大学の研究者や異業種の皆さんと知恵を出し合いながら、新たなリサイクルについて、積極的に取り組んでいきたい。

【問】市商工・ブランド振興課商工・企業誘致推進係（☎77・8762）

【企業情報】

- 本社所在地
= 筑紫町 397-1
☎ 72・4412
- 資本金
= 300万円
- 代表取締役社長
= 梶島大樹
- 従業員 = 45人



破砕。公共工事の埋戻し材料にしたり、国営水路の排水樋門に集まるごみの収集分別処分も引き受けるなど、筑後地域を中心に、ごみ処理やリサイクル事業に取り組んでいます。



1 ペットボトルをまとめて圧縮。約10kgの塊にしていく（久末の三橋工場）
2 本社工屋。柳川商事グループの柳川清掃センターや柳川環美センター、柳川リサイクルセンターの事務所も併設
3 3代目となる梶島大樹社長。4年前に2代目社長から引き継ぐ
4 本社敷地内にある、資源ごみなどの持ち込みができるスペース。三橋工場にも設置